

西脇市消費生活センター

☎22-3111 (防災安全課内)

No.188

令和2年度の相談内容からみるトラブル傾向

◆令和2年度の相談件数 (293件)

60歳以上の方からの相談が全体の4割以上を占めました。主な相談内容は下記のとおりです。

◇架空請求メールや不審メールなど (71件)

携帯電話やスマートフォンのSMS(ショートメッセージサービス)に不審なメッセージが届く、身に覚えのない電話がかかってくる、不審な荷物が届いた など

◇デジタルコンテンツ (17件)

サイトの閲覧中に「会員登録」と表示され、解約のために高額な料金を請求された など

◇健康食品 (12件)

定期購入だと気付かずに注文したサプリメントを解約したい など

◆今、要注意の消費者トラブル

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために外出を控え、「巣ごもり消費」が増えました。それに伴って、ネット通販等でのトラブルが増えています。

ネット上で個人情報を入力する際は慎重に行いましょう。また、月々の請求明細は必ず確認するようにしましょう。

あぐりコラム 26

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線 2031)



今後活躍が期待される「自走草刈り機」

先進技術を使ったこれからの農業

新型コロナウイルスの感染拡大は、農業の分野にも影響をもたらしています。例えば、農産物の産地では栽培・収穫など、加工工程では原料供給や作業においてこれまで以上に労働力が不足しており、さらに流通では人の移動や接触の抑制が消費形態を変化させました。

そんな中、生産・加工・流通・消費の全ての工程で省人化・無人化の取り組みが注目を集めています。

労働力不足を補うため、産地ではリモコン式の自走草刈り機や運搬車、自動かん水装置、農薬散布用ドローンなどの先進技術を駆使した「スマート農業」の技術革新が急速に進んでいます。西脇市内でも、水稻を中心にドローンや産業用無人ヘリコプターによる農薬散布が導入され、生産者をサポートしています。

世界に誇る日本の農業技術は、伝統と革新によって発展してきました。コロナ禍でこれまでと異なる環境でも、さまざまな技術を活用しながらおいしい農作物を届けてくれる全ての方々に感謝したいと思います。



ワクチン接種を終え、経過観察を受ける市民の皆さん

新型コロナウイルスの変異株が出現し、その猛威は西脇にまで及んでいます。ワクチン接種が急がれる中、西脇市では医療従事者の接種が4月中に完了し、高齢者施設の方の先行接種に続いて、5月17日からは75歳以上の方の接種を開始。他市では「接種予約に電話が殺到」等の報道がありましたので、急ぎよ市内7カ所に「サポート窓口」を開き、市職員などが1500件以上の予約を支援しました。

人のつながりの大切さ



西脇市長 片山 三

市長からの手紙

西脇を元気に!!

89

また、ご家族の方にも予約の協力をしていただいたおかげで、受付開始後の3日間で70%以上の方の予約が完了しました。このことは、新聞記者の方も大変驚かれました。ワクチンの接種会場には、医師会の先生方や看護師さん、薬剤師会の先生方やお越しいただき、集団接種は大きな混乱なくスタートしています。接種には100歳を超える方も。つえを突く方や車いすの方もおられますが、会場の中では、皆さんがお互いを気遣って車いすの方に順番を譲る姿を見て、また、帰り際に「予約から接種までスムーズやった。ありがとう」という言葉を掛けていただき、心がホッコリしました。コロナのまん延でさまざまなことを感じますが、「人のつながりの大切さ」を改めて感じています。もう少しの我慢です。この難局を、市民一丸となり乗り越えましょう。

好きです！にしわきわたしのふるさと

心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。



▲中学生向けのネット利用の講演会。保護者には動画で啓発

子どもたちの健全育成を目指して 青少年センターの取り組み

青少年センターは、青少年の健全育成を目指してさまざまな取り組みを行っています。情報化が進み、ネットやゲーム依存といった新たな問題が次々と出てくる中、センターは関係機関と協力し、問題を解決しながら青少年の夢と希望を育て、さらに保護者も支援する取り組みを進めています。

専門の職員が対応 「教育相談」

子どもたちが一日の大半を過ごすのが学校です。その学校生活で悩み事などがあれば、心に大きな負担が掛かります。子どもたちだけでなく、お父さんのお母さんを抱える保護者の方はいませんか。皆さんの悩みを解決するため、臨床心理士や相談員が教育相談に応じます。

◆とき

午前9時～午後5時15分(土・日・祝日を除く)

◆申込み・問合せ

青少年センター教育相談窓口 (☎22-8080)

問題発生時の未然防止へ 「青少年問題協議会」の開催

学校関係者や子どもたちと深く関わる関係機関が集まり、市や教育委員会に寄せられた

講演会や動画で啓発 「ネット・ゲーム依存の脱却」

全国的に会員制交流サイト(SNS)が原因となるいじめやネット依存、ゲーム障害などの問題が発生しています。市では中学校区ごとに情報技術の専門家によるネット利用に関する講演会を開いたり、動画投稿サイト・YouTubeで啓発動画を公開したりしています。

◆問合せ

青少年センター(☎22-4000)

心のスケッチ

146

人権教育課コラム

私を励ます出会い

今から15年前、私は不登校の児童生徒の支援に携わっていました。いわゆる「ひきこもり」となっている小中学生が社会とつながりを持つべく、体験活動を通じた支援をすることが私の役割でした。当時、支援していた子どもの中で小学6年生のAさんは、私が自宅を訪ねても顔が見られないことが度々ありました。Aさんは学校へ行くことができないことで人目が気になっていました。そして、自分を強く否定する気持ちから、家族以外の人と会うと体が震えてしまうほどの苦しさの中にいました。私は置き手紙やドア越しの会話、メールでやりとりしながらコミュニケーションを図り、次第に会うことができるようになりました。そして、写真を撮りながら出掛けたり、キャッチボールやキャンプをしたりすることを通して、Aさんは少しずつ生活の中に楽しさを感じ、学校の別室で学習ができるようになりました。

その後、私は教員となり、学校現場で日々奮闘していたとき、12年ぶりにAさんからメールが届きました。「時間があつたら、ご飯を食べに行きませんか」と。久しぶりに会った彼の表情は輝いていました。受験に挑んだことや大学のサークルとアルバイトを通して多くの人の考えに触れることができたこと、社会人となり彼女ができたことまで教えてくれました。さらにうれしかったのは、彼の言葉の端々から周りの人たちが温かく気遣う思いやりが感じられたことです。不登校の中で苦しい思いをしたからこそ、他人の気持ちがよく分かる優しい大人になっていました。

今、コロナ禍で周囲とのコミュニケーションが取りにくく、多くの人がふさぎ込みがちなのを過ごしているのではないのでしょうか。一見、進展していないように見える状況であっても、人はその中で考え、感じ、学ぶことで、明るい未来につながることもできると信じたい。私は今後も、彼との出会いでそう励まされています。